

AnyWireASLINKSystem 製品説明書

アズリンクアンプ
ASLINKAMP [ファイバアンプ(7セグ表示付タイプ)]

L□-F1011

【安全上のご注意】

安全にお使いいただくため、次のような記号と表示で注意事項を示していますので必ず守ってください。



警告

この表示は、取り扱いを誤った場合、死亡または重傷を負う可能性が想定される内容です。



注意

この表示は、取り扱いを誤った場合、傷害を負う可能性、および物的損害のみの発生が想定される内容です。



警告

- システム安全性の考慮
本システムは、一般産業用であり安全確保を目的とする機器や事故防止システムなど、より高い安全性が要求される用途に対して適切な機能を持つものではありません。
- 設置や交換作業時は、必ずシステムの電源を切ってください。
- 出力ユニット、出力回路を含む混合ユニットにおいて、定格以上の負荷電流または負荷短絡などによる過電流が長時間継続して流れた場合、発煙、発火の恐れがありますので、外部にヒューズなどの安全装置を設けてください。



注意

- システム電源
DC24V安定化電源を使ってください。安定化電源でない電源の使用はシステムの誤作動の原因となります。
- 高圧線、動力線との分離
AnyWireASLINKは高いノイズマージンを有していますが伝送ラインや入出力ケーブルは高圧線や動力線と離して敷設ください。
- コネクタ接続、端子接続
・コネクタ、接続ケーブルにストレスが掛からないようまたストレスが加わった場合でも外れたりしないようケーブル長さ、ケーブル固定方法などに配慮してください。
・コネクタ内部、また端子台には金属くずなどが混入しないよう注意してください。
・金属くずによる短絡、誤配線は機器に損傷を与えます。
- 機器に外部からのストレスが加わる様な設置は避けてください。故障の原因となります。
- 伝送ラインが動作している時に、伝送ラインとスレーブユニットの接続を切断したり再接続したりしないでください。誤作動の原因となります。
- AnyWireASLINKは下記事項に定められた仕様や条件の範囲内で使用してください。

【保証について】

■保証期間

納入品の保証期間は、ご注文文のご指定場所に納入後1箇年とします。

■保証範囲

上記保証期間中に、本取扱説明書にしたがった製品仕様範囲内の正常な使用状態で故障が生じた場合は、その機器の故障部分の交換または修理を無償で行ないます。
ただし、つぎに該当する場合は、この保証範囲から除外させていただきます。

- (1)需要者側の不適当な取り扱い、ならびに使用による場合。
- (2)故障の原因が納入品以外の事由による場合。
- (3)納入者以外の改造、または修理による場合。
- (4)その他、天災、災害などで、納入者側の責にあらざる場合。

ここでいう保証は納入品単体の保証を意味するもので、納入品の故障により誘発される損害はご容赦いただきます。

■有償修理

保証期間後の調査、修理はすべて有償となります。
また保証期間中においても、上記保証範囲外の理由による故障修理故障原因調査は有償にてお受けいたします。

【型 式】

ビット動作

LA-F1011	ファイバアンプ (7セグ表示付タイプ)	1CH(親機)
LB-F1011		1CH(子機)

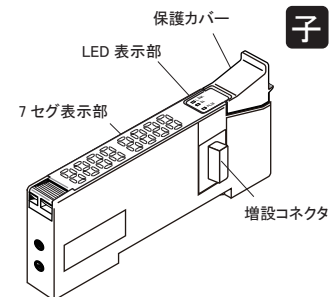
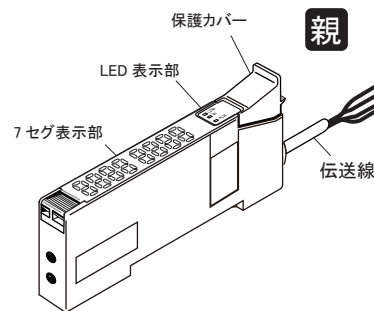
【機 能】

機 種	ASLINKAMP 4線式(絶縁)
接続対象例	汎用ファイバヘッド
機 能	感度調整(しきい値)
	ヒステリシス
	ライトON/ダークON
	受光レベル表示切換
	投光パワー
	ディレイタイマ
	ワンショット
	アドレス/パラメーター自動設定
	7セグ表示向き
	センシングレベル低下
スレーブユニット電圧低下	

【梱包品について】

LA-F1011(親)	アンプ本体 …1
LB-F1011(子)	アンプ本体 …1

【各部の名称】

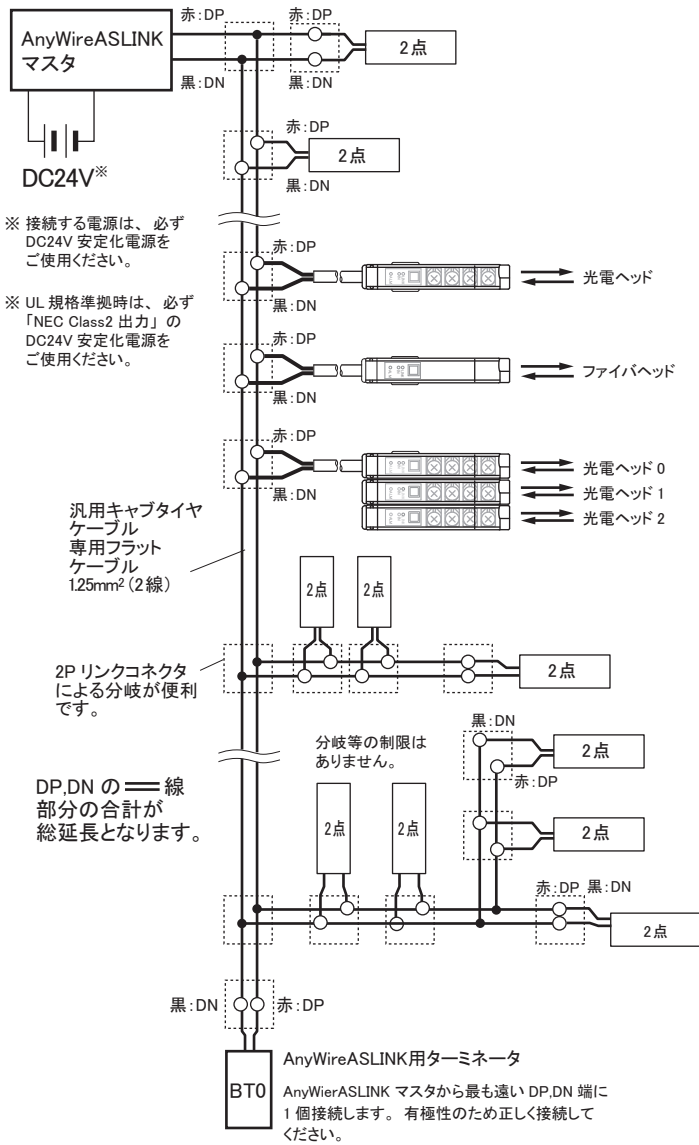


【AnyWireASLINKの接続方法】

AnyWireASLINKは、負荷電流に応じて2線式ターミナルと4線式ターミナルを選択できます。
この説明書は、2線式（非絶縁）ターミナルを対象に記述しています。
負荷電流が少ない場合、2線式（非絶縁）ターミナルを使用する事で、ローカル給電不要で簡便な配線が可能です。
また、負荷が集中する箇所や接続台数を優先させる場合には、ローカル給電ができる4線式（絶縁）ターミナルとの混在も可能です。
なお、外部電源を使った入力、負荷の駆動を行う場合は、必ず4線式（絶縁）ターミナルを使用してください。
混在させる場合は、別途4線式（絶縁）ターミナルの製品説明書をご覧ください。

【接続例】

■2線式（非絶縁）ターミナルのみでの接続



■伝送線の線径、距離と供給電流の関係（表1）

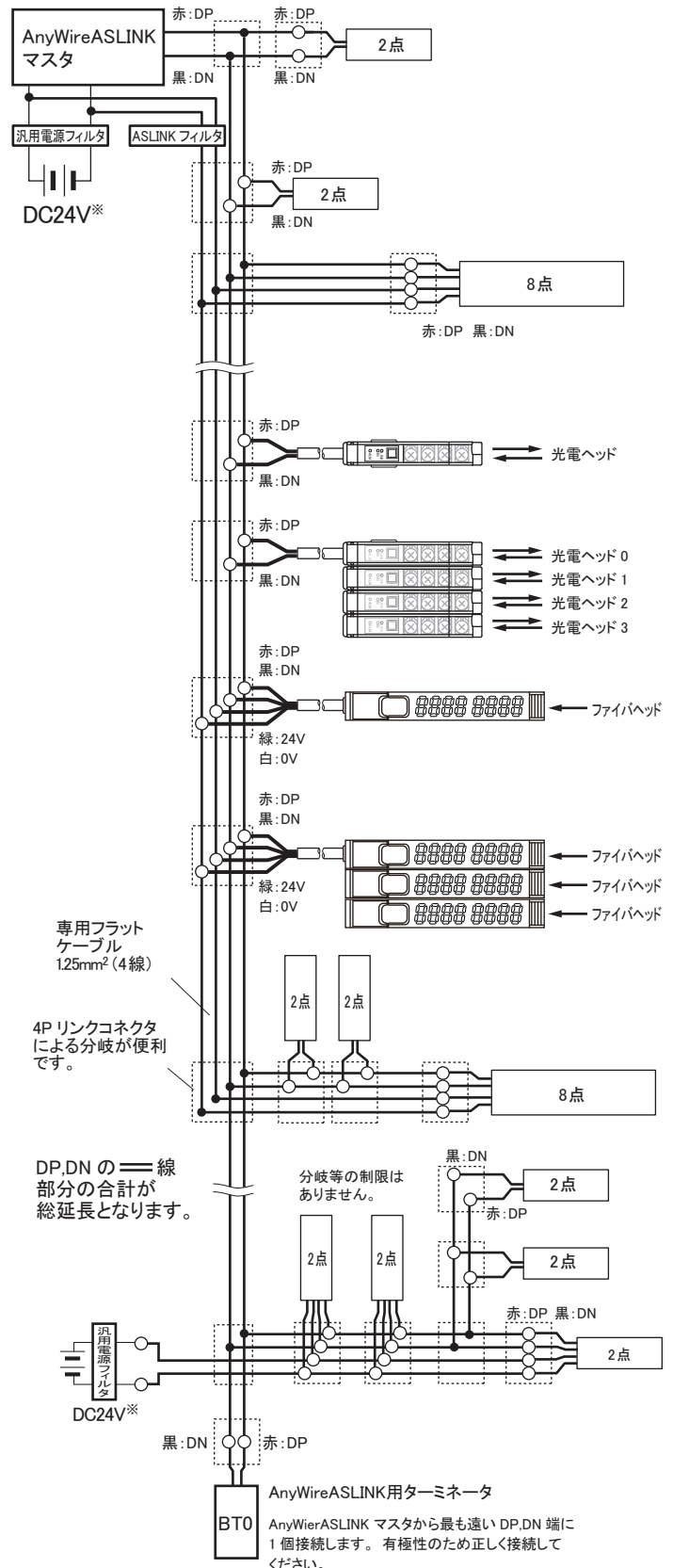
伝送線 (DP, DN) の線径	伝送線 (DP, DN) 供給電流値		
	総延長50m以下	総延長50mを超え~100m以下	総延長100mを超え~200m以下
1.25mm ²	MAX 2A	MAX 1A	MAX 0.5A
0.75mm ²	MAX 1.2A	MAX 0.6A	MAX 0.3A
0.5mm ²	MAX 0.8A	MAX 0.4A	MAX 0.2A



注意 伝送線線径、伝送距離と許容供給電流は、(表1)の内容を参照し適正な範囲で使用してください。

- AnyWireASLINKマスタのDP, DNと各機器のDP, DNを同じ記号どうし正しく接続します。
- 分岐長、分岐数に制限はありません。
- ターミナルに付属しているケーブル長も「総延長」に含めてください。
- AnyWireASLINKマスタから一番遠い伝送線の端末にターミネータ「BT0（有極性）」を接続してください。

■2線式（非絶縁）、4線式（絶縁）ターミナルの混在例



注意 AnyWireASLINKで使用している電源とは別の電源で制御されている負荷（入出力ポート等）と接続する場合は、必ず4線式（絶縁）ターミナルを使用してください。誤動作の原因となります。

【4線式(絶縁)ターミナル併用時の注意点】

供給する電源系統において DP, DN, 24V, 0V 線の併走が総延長 50m を超える場合は、「ASLINK フィルタ [型式 ANF-01]」または「コーセル株式会社 [型式 EAC-06-472]」を併走が始まる位置の 24V, 0V に直列接続してください。

耐ノイズ性の向上、ならびに伝送信号によるクロストークの影響を抑え、信号の安定化を図ります。

マスタ用電源から一括給電する場合、ローカル電源から給電する場合いずれも挿入対象となります。

CE 規格に準拠する場合は、敷設方法、距離に係わらず「ASLINK フィルタ [型式 ANF-01]」を挿入してください。

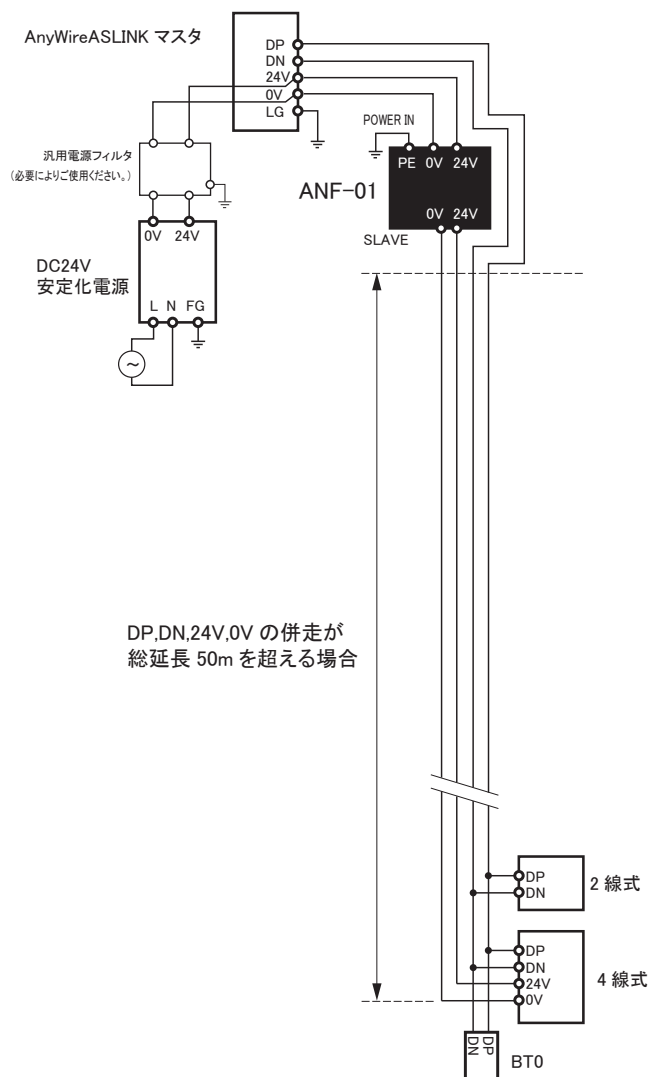
■フィルタ許容電流値

機種	型式	許容電流
ASLINK フィルタ	ANF-01	最大 5A/DC24V
コーセル株式会社フィルタ	EAC-06-472	最大 6A/DC24V

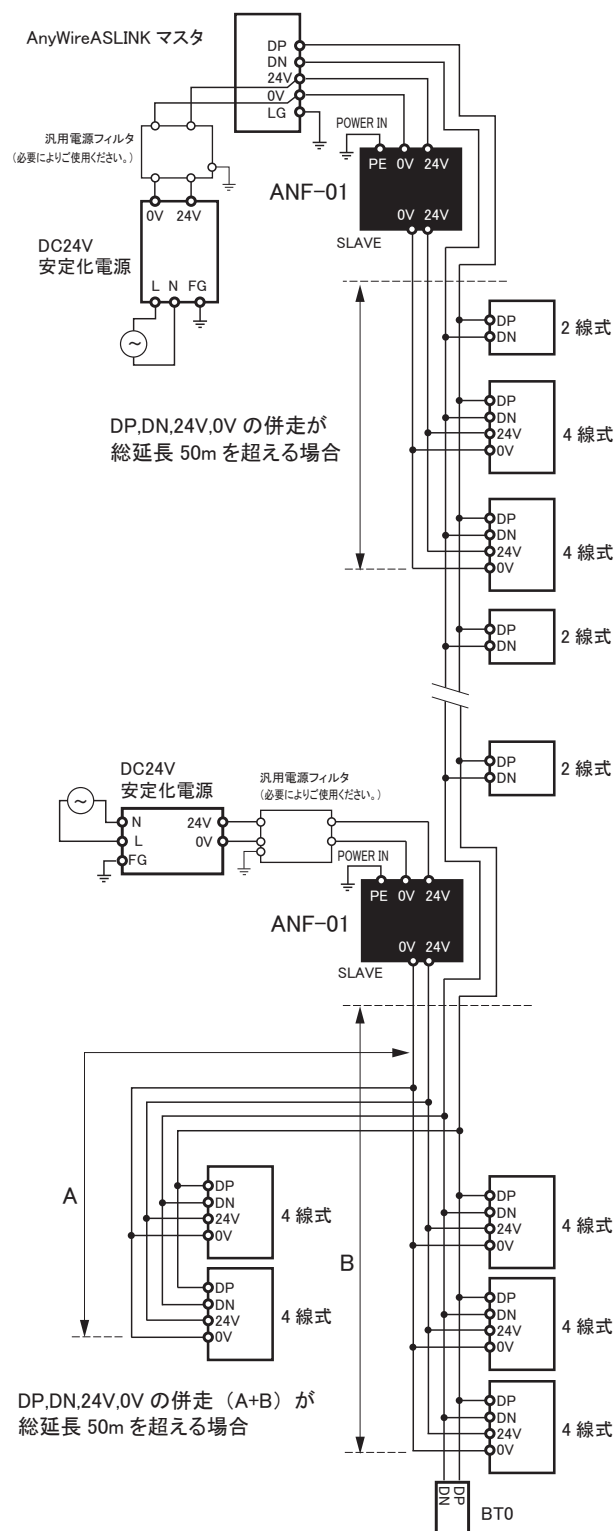
■エニイワイヤ 型式：ANF-01 接続例

(図は説明用の結線図です。実際の端子配列は各機器に合わせてください)

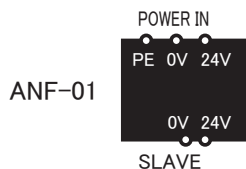
①一括給電



②ローカル給電・分岐



■図中のフィルタ表記

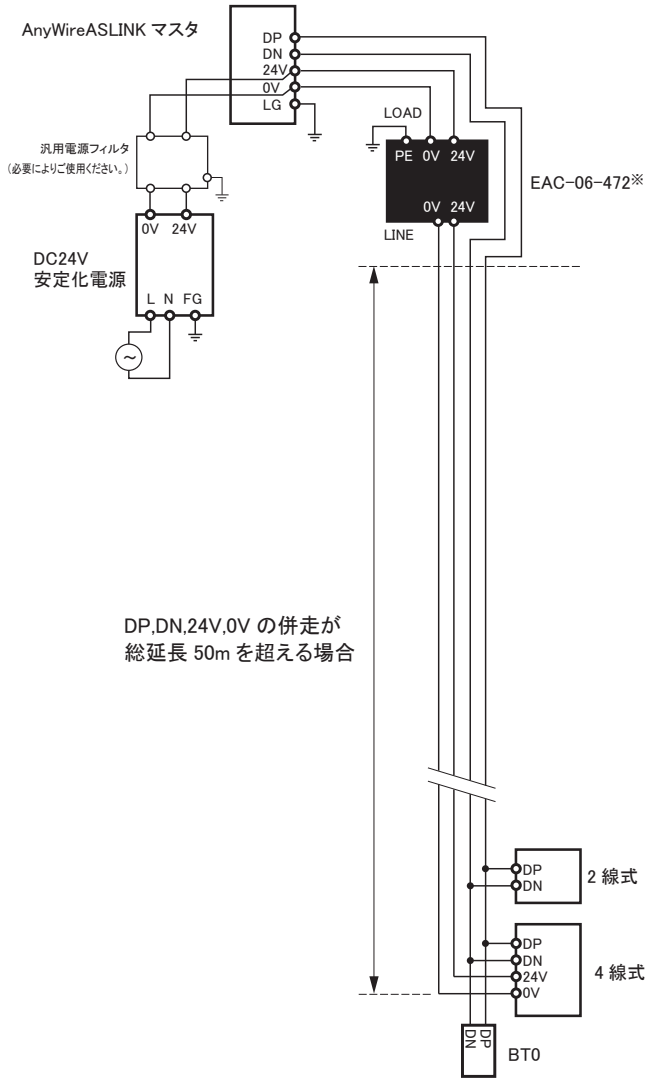


ANF-01 の詳細は
ANF-01 製品説明書
をご覧ください。

■コーセル株式会社 型式：EAC-06-472 接続例

(図は説明用の結線図です。実際の端子配列は各機器に合わせてください)

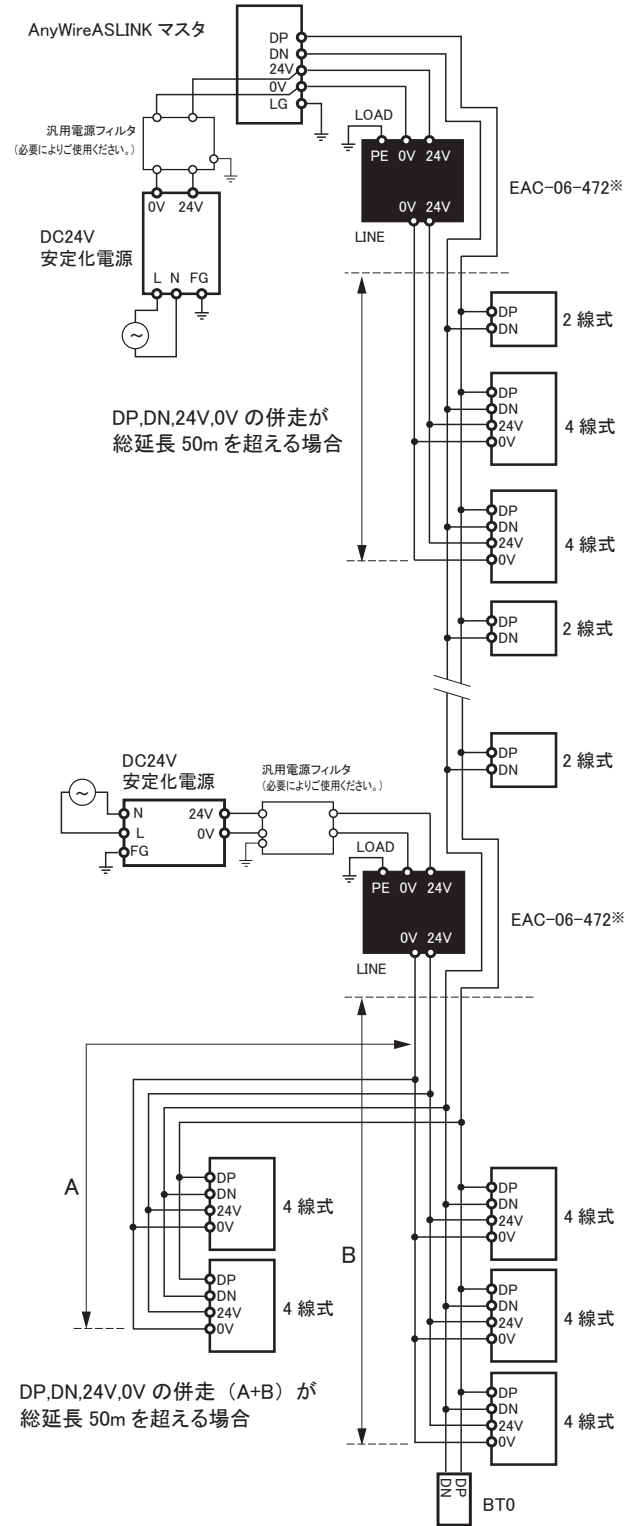
①一括給電



DP, DN, 24V, 0V の併走が
総延長 50m を超える場合

※このフィルタを使用する場合は、
LOAD、LINE の位置にご注意ください。

②ローカル給電・分岐

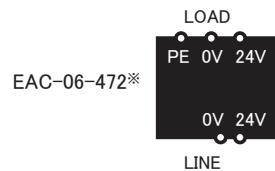


DP, DN, 24V, 0V の併走が
総延長 50m を超える場合

DP, DN, 24V, 0V の併走 (A+B) が
総延長 50m を超える場合

※このフィルタを使用する場合は、
LOAD、LINE の位置にご注意ください。

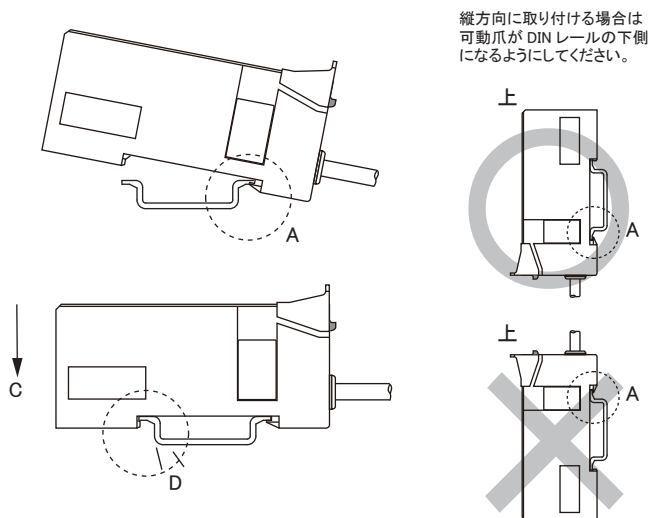
■図中のフィルタ表記



【取り付け】

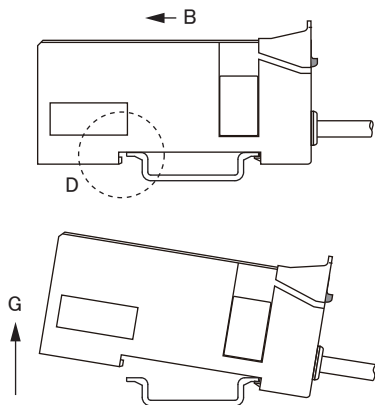
取り付け、取り外し方法は、親機、子機とも同じです。 **親子**

可動爪 A を DIN レールに掛けます。
反対側の固定爪 D がカチッと言うまで C 方向に押し下げてください。



【取り外し】

本体を B 方向に押し、固定爪 D を DIN レールから外します。
そのまま G 方向に上げ、本体を浮かせ取り外してください。



【設置場所について】

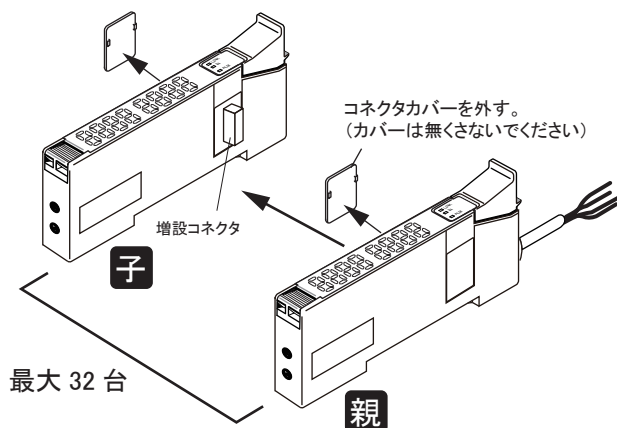
- ・振動や衝撃が直接本体に伝わらない場所
- ・粉塵に直接晒されない場所
- ・金属屑、スパッタ等導体が直接本体にかからない場所
- ・結露しない場所
- ・腐食性ガス、可燃性ガス、硫黄を含む雰囲気のない場所
- ・高電圧、大電流のケーブルより離れた場所
- ・サーボ、インバータ等高周波ノイズを発生するケーブルコントローラより離れた場所

【ご使用時の注意】

このユニットを伝送線に接続する時、また親機に子機を増設する時は、伝送信号の供給を停止した状態で行ってください。
活線状態のまま接続を行うと、ユニットが接触時のチャタリングを異常と検出し停止する可能性があります。

【増設】

親機に子機を増設できます。
親機のコネクタカバーを外し、内蔵の増設コネクタに子機を接続します。



LA-F1011 に LB-F1011 は、最大 31 台まで増設可能です。

LA-F1011、LB-F1011 の仕様は、次の通りです。

■消費電流

LA-F1011	共通	DP-DN	1.9mA
LB-F1011		24V-0V	25mA

■占有点数

LA-F1011	共通	1点
LB-F1011		1点

LA-F1011 に LB-F1011 を 31 台増設したブロックは、入力 32 点を占有します。
また、DP-DN 消費電流は、60.8mA となります。

32 光軸以上ファイバー入力が必要な場合は、別途ブロックを設けてください。

LA-F1011 と LB-F1011 のみ接続した場合、1 系統での最大接続台数は 128 台です。

【伝送ライン接続】

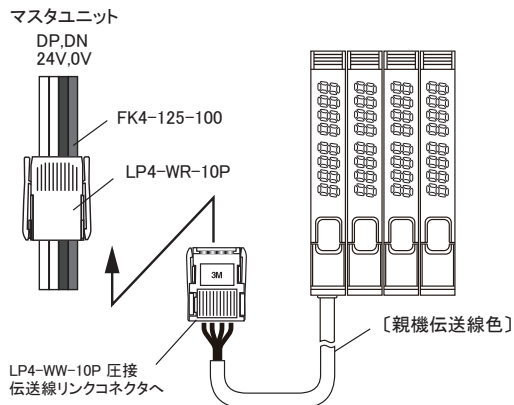
親機の伝送線をマスタからの伝送線に接続します。
このターミナルは、4線式（絶縁）タイプで、DP, DN, 24V, 0V を接続して使用します。

■付属線内容

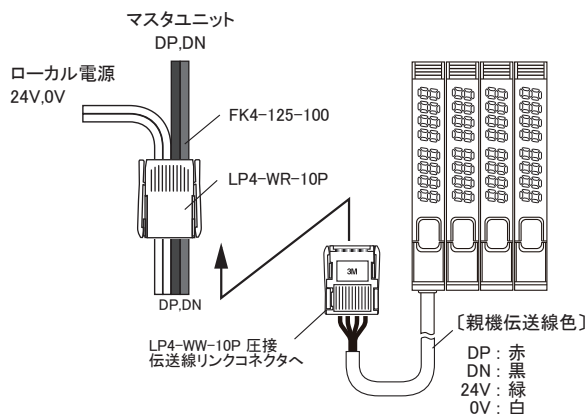
線色	内容
赤	DP: 伝送線 (+)
黒	DN: 伝送線 (-)
緑	24V: ユニット駆動電源 (+)
白	0V: ユニット駆動電源 (-)

〔リンクコネクタを利用した接続例〕

■一括給電



■ローカル給電



■リンクコネクタピン配列

ピン番号	内容	線色
1	DN	黒
2	DP	赤
3	0V	白
4	24V	緑

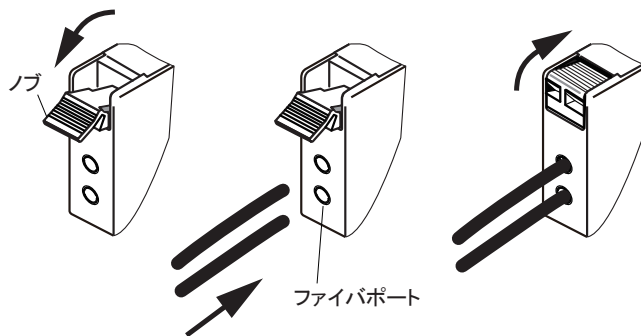
LPコネクタ(リンクコネクタ)は雌雄同体のコネクタです。
同一種のコネクタ同士を結合するだけで「接続」「分岐」
が簡単にできます。

【ファイバ接続】

ファイバ径 (mm)	装着方法
φ2.2	直接
φ1.0	アタッチメント (E39-F9) 併用

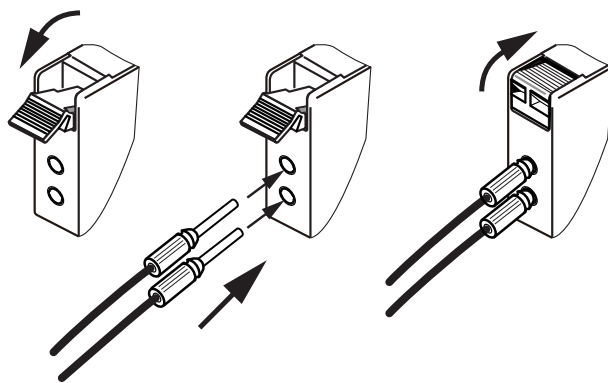
■直接装着する場合:ファイバ径φ2.2

アンプ側ファイバポートのノブを押し下げ、ファイバポートに
ファイバを突き当たるまで差し込み、ノブを上に戻します。



■アタッチメントを通し装着する場合:ファイバ径φ1.0

アンプ側ファイバポートのノブを押し下げ、ファイバポートに
ファイバを突き当たるまで差し込み、ノブを上に戻します。



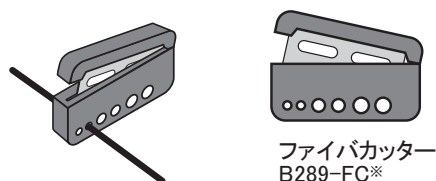
細径ファイバ用アタッチメント (E39-F9) オムロン社製
E39-F9 は、別途ご購入ください。



ファイバの先端がアタッチメント
先端から0.5mm程度飛び出した
状態でアンプに装着します。

■ファイバの切断

ファイバは、ファイバヘッドに添付のファイバカッターで切断
してください。
その際、ファイバ径に合った穴を通し直角に切断してください。
また一度使用した穴の場所は再度使用しないでください。



※ファイバカッター (B289-FC) は、AnyWireASLINK ファイバヘッド
(AFT-4、AFT-1、AFT-2、AFT-1-1) それぞれに1個同梱されています。



注意 一度装着したファイバを再度使用する場合は、ファイバ端面を切断
し直してください。
投受光量低下の原因となります。

【各種設定】

■項目

アドレス番号設定

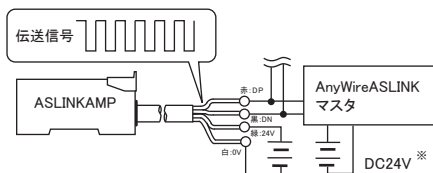
ティーチング

パラメータ設定

■アドレスライタ操作の共通手順

必ず AnyWireASLINK マスタユニットに接続して使用してください。
設定には アドレスライタ ARW-04 (Ver.04-1.01 以降) が必要です。
操作方法の詳細は、アドレスライタの製品説明書をご覧ください。

1. ターミナルを AnyWireASLINK マスタユニットに接続します。
伝送信号 (DP/DN) と電源 (24V/0V) を供給した状態でアドレスライタにて設定を行ってください。



※ 接続する電源は、必ず DC24V 安定化電源をご使用ください。

2. 設定は、全てのターミナルに対し必要です。
設定するターミナルの保護カバーを開き、図 1 の通り設定ポートにアドレスライタを向けて設定します。
(設定ポートに投受光部をできるだけ近づけてください)
設定しないターミナルの保護カバーは閉めておいてください。

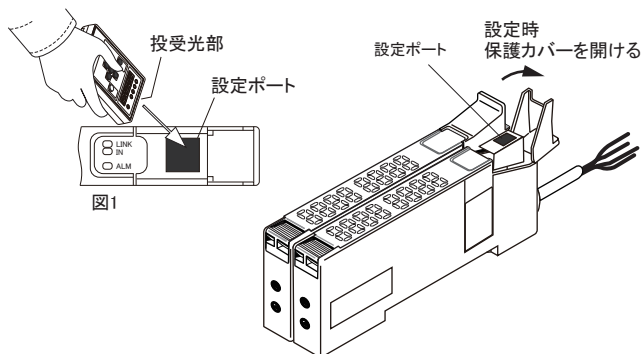


図1

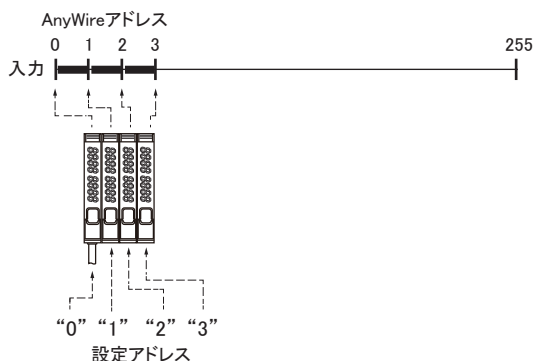
アドレス番号設定

アドレス番号は、そのターミナルへ伝送フレームの何番目から占有させるかの先頭番号を設定するものです。
"0 ~ 254" の範囲でアドレス番号を設定します。



注意 ターミナル出荷時は、非設定を示すアドレス番号「255」を設定しています。
またアドレス番号設定値が「255」の場合、ターミナルは、入出力動作を行いません。
必ずアドレス番号設定値を「0~254」の範囲内に設定してから使用してください。

例) ファイバンプ 4 連時のアドレス対応



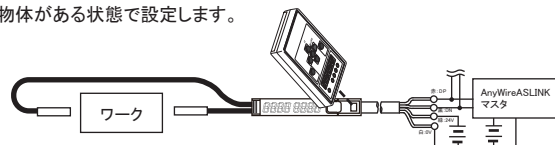
ティーチング

ASLINKAMP にワーク有/ワーク無の時の状態を記憶させます。

設定は、実際に使用するワークで行ってください。

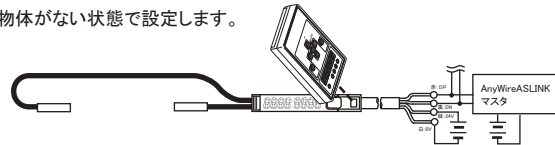
[SET ON 設定]

検出物体がある状態で設定します。



[SET OFF 設定]

検出物体がない状態で設定します。



[自動設定]

受光レベルの表示設定が AD 値表示の場合 (パラメータ 08) ティーチング操作時に記憶したワーク有・無時の AD 値の差を基準として、「しきい値」「ヒステリシス」「アラーム値 Hi」「アラーム値 Lo」が以下の%で自動設定されます。

しきい値	50%
ヒステリシス	5%
アラーム値 Hi	80%
アラーム値 Lo	20%

パラメータ設定

■しきい値の変更

検出有無を判定する受光レベルのしきい値を設定します。
※ティーチングで記憶した検出状態の差を100%としています。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 01

AD値	0 - 100%	出荷時: 50 (AD値)
0 - 4095	0 - 100%	

■ヒステリシスの変更

検出状態が、ON→OFF するのに必要な受光値の変化量を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 02

AD値	0 - 100%	出荷時: 5 (AD値)
0 - 4095	0 - 100%	

■アラーム値Hiの設定

アラーム判定値の上限を設定します。※アラーム値 は、Hi>Lo となるように設定してください。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 03

AD値	0 - 100%	出荷時: 0 (AD値)
0 - 4095	0 - 100%	

※設定範囲はパラメータ 8 の設定に依存。

■アラーム値Loの設定

アラーム判定値の下限を設定します。※アラーム値 は、Hi>Lo となるように設定してください。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 04

AD値	0 - 100%	出荷時: 0 (AD値)
0 - 4095	0 - 100%	

■アラーム値監視時間の設定

アラーム判定値の監視時間を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 05

変数	単位	出荷時: 50
3 - 255	100ms	

■ライトON/ダークONの設定

ライト ON/ ダーク ON を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 06

変数	内容
0	透過型ダーク(遮蔽)ON
1	透過型ライト(透過)ON
2	反射型ダーク(反射なし)ON
3	反射型ライト(反射あり)ON

出荷時:0

■動作モード変更の有無設定

診断機能の有無を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 07

変数	内容
0	無効 (簡易モード)
1	有効 (ノーマルモード)

出荷時:0

■受光レベルの表示設定

受光レベルの表示を設定します。

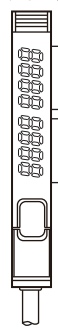
・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 08

変数	内容
0	AD値表示 (0-4095 Digit)
1	0-100%表示

出荷時:0

[7セグ表示]

ファイバ側



ON/OFF しきい値表示部 (緑)

「パラメータ8 変数0: AD 値表示」の場合
0 ~ 4095 の範囲で設定したしきい値を表示します。

「パラメータ8 変数1: 0-100% 表示」の場合
ティーチングによる AD 値の最小を0%、最大を100%と
した時の設定しきい値を0 ~ 100% の範囲で表示します。

受光レベル表示部 (赤)

「パラメータ8 変数0: AD 値表示」の場合
0 ~ 4095 の範囲で AD 変換した受光量を表示します。

「パラメータ8 変数1: 0-100% 表示」の場合
ティーチングによる AD 値の最小を0%、最大を100%と
して受光量を0 ~ 100% の範囲で表示します。

伝送側

■投光パワー設定

投光レベルを設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 09

変数	内容
0	High
1	Middle
2	Low

出荷時:0

■ON Delayの設定

ON 遅延時間を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 10

変数	単位
0 - 999	100ms

出荷時:0

■OFF Delayの設定

OFF 遅延時間を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 11

変数	単位
0 - 999	100ms

出荷時:0

■One Shotの設定

One Shot 時間を設定します。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 12

変数	単位
0 - 999	100ms

出荷時:0

■アドレス・パラメータ自動設定(親機のみ)

アドレス・パラメータを自動設定します。

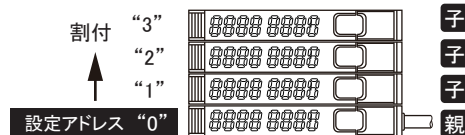
・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 17

変数	内容
0	自動設定無効
1	アドレスのみ自動設定
2	パラメータのみ自動設定 ※親機のパラメータに連動
3	アドレス・パラメータ自動設定

出荷時:0

親機に設定されたアドレス、パラメータ設定を子機に自動反映させる機能です。
この自動設定モードを有効(値1, 2, 3)にすると、親機へ設定したアドレスや
パラメータが子機へ自動割付されます。

例) パラメータ17
値1の場合



■7セグ表示向き切換設定(親機のみ)

7セグ表示を180°反転表示させる機能です。
本体の向きによって数字が読みにくい場合等では便利です。

・アドレスライタ (ARW-04) : パラメータ 18

変数	内容
0	通常表示
1	180°反転表示

出荷時:0

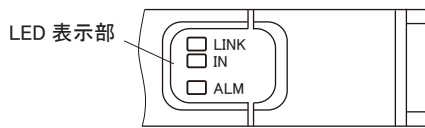


【モニタ表示】

本体の動作状態をLEDで表示します。

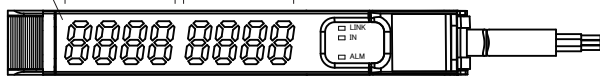
正常状態： LINK 点滅、ALM 消灯、IN ON 点灯 / OFF 消灯

名称	表示状態	内容
LINK (緑色)	点灯	伝送異常、I/O 電源低下
	点滅	伝送信号と 24V 電源がともに供給されている時
	消灯	電源なし
ALM (赤色)	点灯	I/O 電源低下、センシングレベル低下
	点滅	スレーブユニット電圧低下 (DP, DN 断線や逆接を含む)
	消灯	正常
LINK ALM	交互点滅 	マスタユニットがこのユニットの ID (アドレス) 重複または未設定であると検知した時
IN (橙色)	点灯	ON
	消灯	OFF



7セグ表示部

しきい値表示 受光レベル値表示



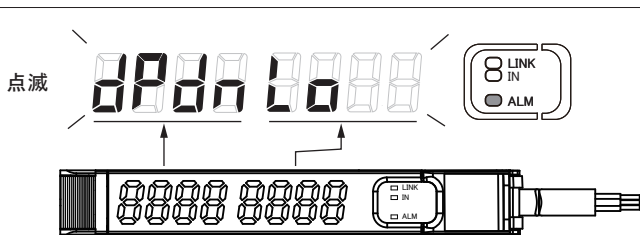
表示部は、親機、子機とも同じです。

【トラブルシューティング】

本体の表示窓で以下のエラー表示がされた場合は、次のように対処してください。

LINK	IN	ALM	原因	処置
○ 消灯	○ 消灯	○ 消灯	<ul style="list-style-type: none"> AnyWireASLINK 伝送信号が接続されていない。 AnyWireASLINK システム自体の電源が入っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ASLINKAMPとAnyWireASLINK システム間が断線していないか確認し接続を修復してください。 AnyWireASLINK システムの電源状況を確認し、電源を投入してください。
● 点灯	○ 消灯	○ 消灯	<ul style="list-style-type: none"> DP-DN線が直接 24-0V電源に接続されている等により伝送波形を受信できていません。 	<ul style="list-style-type: none"> AnyWireASLINKシステムへ接続しなおしてください。
◎ 点滅 (0.5秒交互)	○ 消灯	◎ 点滅 (0.5秒交互)	<ul style="list-style-type: none"> ASLINKAMPがアドレス255(出荷時設定)のままになっています。 ASLINKAMPが別のユニットとアドレス重複しています。 	<ul style="list-style-type: none"> 255以外でアドレス設定してください。 他に同じエラー表示になっているユニットを探して、それと異なるアドレスを設定してください。
—	—	◎ 点滅 (0.2秒点灯 1.0秒消灯)	<ul style="list-style-type: none"> ASLINKAMPの内部電源電圧が低下しています。 DP-DNの断線や逆接 	<ul style="list-style-type: none"> 同じAnyWireASLINKシステムに接続されているユニットの数を減らしてください。 ASLINKAMPとマスタユニット間の伝送線を短くしてください。

■ユニット電圧 (DP-DN) 低下検知

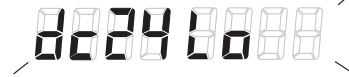


表示部は、親機、子機とも同じです。

次の点を確認し、該当要因を取り除いてください。

- AnyWireASLINK マスタに供給する DC24V 電源の電圧が許容電圧範囲にあるか
- 幹線、支線での接続部に緩みや接触不良が無い
- ユニット、接続負荷の電流がシステム条件に適合しているか

■異常電圧検知



このユニットに供給している DC24V の電圧が著しく低下 (約 16V 付近) すると、“dc24 Lo”と表示し、機能停止状態となります。供給電圧を確認し、許容範囲内となるようにしてください。

アドレスライタで以下のエラー表示がされた場合は、次のように対処してください。

表示	原因	対処
【E-0303】	設定パラメータが不正です	パラメータ対応表を確認の上、正しいパラメータを設定してください

以下のような場合は次のように対処してください。

症状	対処
検出ができない	<ul style="list-style-type: none"> 配線は正しいですか？ <ul style="list-style-type: none"> 伝送線、電源線の接続を再確認してください。 AnyWireASLINKシステムに電源は投入されていますか？ <ul style="list-style-type: none"> 電源を確認してください。 アドレス設定は行いましたか？ <ul style="list-style-type: none"> アドレス設定を行ってください。 定格の入力範囲内で使用していますか？ <ul style="list-style-type: none"> 定格の検出範囲内で使用してください。
ARW-04で設定ができない	<ul style="list-style-type: none"> 配線は正しいですか？ <ul style="list-style-type: none"> 伝送線の接続、伝送信号が印加されているか再確認してください。 AnyWireASLINKシステムに電源は投入されていますか？ <ul style="list-style-type: none"> 電源を確認してください。 保護カバーを開いて設定していますか？ <ul style="list-style-type: none"> 保護カバーを開いてください。閉じたままでは設定できません。 設定パラメータは正しいですか？ <ul style="list-style-type: none"> パラメータ対応表を確認の上、正しいパラメータを設定してください。

【パラメータと項目】

パラメータ	変数	内容	出荷時変数
【01.】しきい値	0-4095 (0-100%)	検出判定の受光レベル値を設定します。	50
【02.】ヒステリシス	0-4095 (0-100%)	検出状態が、ON→OFFするのに必要な受光値の変化量を設定します。	5
【03.】アラーム値Hi	0-4095 (0-100%)	アラームが発生させる受光値の上限を設定します。	0
【04.】アラーム値Lo	0-4095 (0-100%)	アラームが発生させる受光値の下限を設定します。	0
【05.】アラーム値監視時間	3-255	アラームが発生させる受光値の監視時間を設定します。(1=100ms)	50
【06.】ライトON/ダークON	0	透過型ダーク(遮蔽)ON	0
	1	透過型ライト(透過)ON	
	2	反射型ダーク(反射なし)ON	
	3	反射型ライト(反射あり)ON	
【07.】動作モード	0	簡易モード(予防保全機能無効)	0
	1	ノーマルモード(予防保全機能有効)	
【08.】受光レベル表示	0	AD値表示 (0-4095 Digit)	0
	1	0-100%表示	
【09.】投光パワー	0	High	0
	1	Middle	
	2	Low	
【10.】ON Delay	0-999	ON遅延時間を設定します。(1=100ms)	0
【11.】OFF Delay	0-999	OFF遅延時間を設定します。(1=100ms)	0
【12.】One Shot	0-999	One Shot時間を設定します。(1=100ms)	0
【17.】アドレス・パラメータ自動設定(親機のみ)	0	自動設定無効	0
	1	アドレスのみ自動設定	
	2	パラメータのみ自動設定 ※親機のパラメータに連動	
【18.】7セグ表示向き切換(親機のみ)	0	通常表示	0
	1	180°反転表示	

【仕様】

■一般仕様

使用周囲温度/湿度	0～55℃※1、10～90%RH(結露なきこと)
保存周囲温度/湿度	-25～75℃、10～90%RH(結露なきこと)
使用雰囲気	腐食性ガスがないこと
使用標高※2	0～2000m
汚染度※3	2以下

※1 子機 1～2 台増設時 : 0～55℃
子機 3～10 台増設時 : 0～50℃
子機 11 台以上増設時 : 0～45℃

※2 AnyWireASLINK 機器を標高 0m の大気圧以上に加圧した環境で使用、または保存しないでください。誤動作の原因となります。

※3 その機器が使用される環境における、導電性物質の発生度合を示す指標です。
汚染度 2 は、非導電性の汚染しか発生しません。
ただし、偶発的な凝結によって一時的な導電が起こりうる環境です。

■伝送仕様

使用電源電圧	電圧 DC24[V]+15～-10%(DC21.6～27.6[V]) リップル0.5[V]p-p max.
伝送方式	DC電源重畳トータルフレーム・サイクリック方式
同期方式	フレーム/ビット同期方式
伝送手順	専用プロトコル
接続形態	バス形式(マルチドロップ、T分岐、ツリー方式)
接続点数	最大512点(IN:256点、OUT:256点)
接続台数	最大128台
RAS機能	伝送線断線、伝送線短絡、伝送電源低下検知 ID重複、ID未設定

■個別仕様

占有点数	入力1点	
応答時間※4	1～2サイクル	
消費電流	24V-0V	25mA
	DP-DN	1.9mA
質量	21g(親機)	
	17g(子機)	
保護構造	IP40	
使用周囲照度	白熱ランプ	3000 lx以下
	太陽光	10000 lx以下

※4 ONまたはOFFを検出し伝送信号を送出するまでの時間。
データの変化には、この時間+伝送1サイクルタイムの時間が必要です。

【検出距離】

■ファイバヘッド (エニワイヤ専用ヘッド)

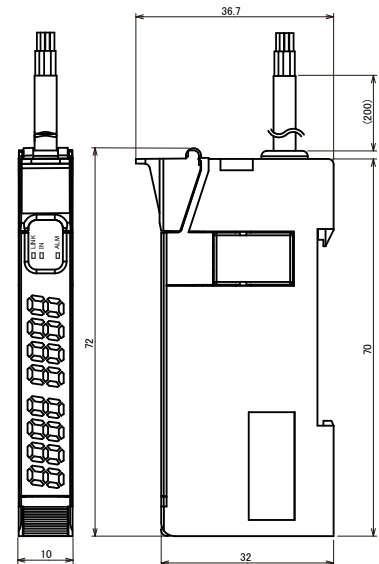
検出距離	タイプ	機種名	検出距離 (mm)	
			診断※あり	診断※なし
	透過型	AFT-4 (M4、R30)	410	600
	透過型	AFT-1 (M3、R20)	160	210
	透過型	AFT-2 (M3、R25)	300	420
	透過型	AFT-1-1 (100℃、M3、R20)	170	240

※「診断」とは、このアンプが有する「センサレベル低下」「伝送信号レベル低下」等の監視、通知機能を指します。

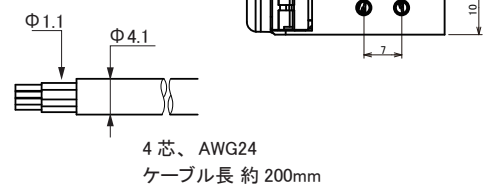
【外形寸法図】

単位 : mm

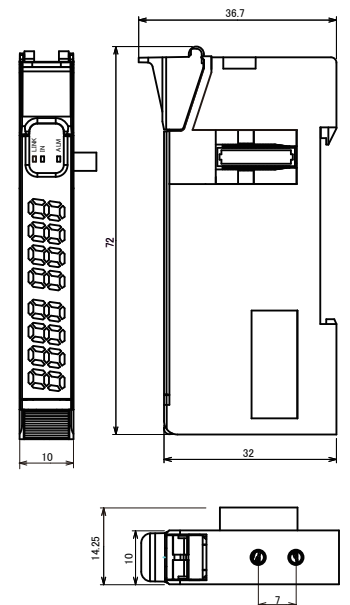
■LA-F1011 (親機)



■伝送線



■LB-F1011 (子機)



【中国版RoHS指令】

电子信息产品上所示标记是依据SJ/T11364-2006规定,按照电子信息产品污染控制标识要求制定。
本产品的环保使用期限为10年,如果遵守产品说明书中的操作条件使用电子信息产品,不会发生因产品中的有害物质泄漏或突变异常而引发严重的环境污染、人身事故,或损坏财产等情况。

的产品中有害物质的名称及含量

部件名称	有害物质					
	铅 (Pb)	汞 (Hg)	镉 (Cd)	六价铬 [Cr(VI)]	多溴联苯 (PBB)	多溴二苯醚 (PBDE)
安装基板	×	○	○	○	○	○
框架	○	○	○	○	○	○

本表格依据SJ/T11364的规定编制。
○:表示该有害物质在该部件所有均质材料中的含量均在GB/T26572规定的限量要求以下。
×:表示该有害物质至少在该部件的某一均质材料中的含量超出GB/T26572规定的限量要求。



【連絡先】

Anywire 株式会社エニワイヤ

- 本社 : 〒617-8550 京都府長岡京市馬場園所1
TEL:075-956-1611(代) / FAX:075-956-1613
- 西日本営業所 : 〒617-8550 京都府長岡京市馬場園所1
TEL:075-956-4911 / FAX:075-956-1613
- 東日本営業所 : 〒101-0035 東京都千代田区神田紺屋町47(新広栄ビル6F)
TEL:03-5209-5711 / FAX:03-5209-5713
- 中部営業所 : 〒461-0048 愛知県名古屋市東区矢田南5-1-14
TEL:052-723-4611 / FAX:052-723-4683
- 九州営業所 : 〒810-0001 福岡県福岡市中央区天神1-15-2(第6明星ビル7F)
TEL:092-724-3711 / FAX:092-724-3713
- テクニカル サポートダイヤル: TEL:075-952-8077